

1. 活動報告

1) 若手研究者運営調整部会

・第5回

日 時：2012年7月5日(木) 10:00~11:00

場 所：総合研究棟D 204室

議 題：

- 1) 国際シンポジウムの概要について
- 2) 国際シンポジウムの役割分担について
- 3) 若手報告会の概要について

・第6回

日 時：2012年7月19日(木) 15:00~16:00

場 所：総合研究棟D 204室

議 題：

- 1) 国際シンポジウムの概要について
- 2) 若手報告会の概要について

2) セミナー (12年7月)

▽若手セミナー

第3回

日 時：2012年7月27日(金) 13:30~15:00

演 者：池羽田晶文先生

農研機構 食品総合研究所 非破壊評価ユニット 主任研究員

演 題：「近赤外光を用いたバイオマテリアルの非破壊・非侵襲分析」

会 場：第2エリア生命環境学群棟 2C107 教室

世話人：源川拓磨

3) 業績 (12年7月)

<原著論文>

Butron Fujii, K., Kobayashi, I., Neves, M. A., Uemura, K., Nakajima, M.

" Influence of temperature on production of water-in-oil emulsions by microchannel emulsification "

Colloids and Surfaces A., in press (2012)Isoda, H., Neves, M. A., Delphine, M., Motojima, H., Han, J., Nakajima, M., and Larroque, M.

" Inhibitory Effect of Picholine Olive Oil-in-water Emulsions on Chemical Mediator Release and Characterization of Their Physicochemical Properties. "

Journal of Agriculture and Food Chemistry. accepted (July, 2012)El-Abbassi, A., Neves, M. A., Kobayashi, I., Hafidi, A., Nakajima, M.

" Preparation and characterization of highly stable monodisperse argan oil-in-water emulsions using microchannel emulsification. "

European Journal of Lipid Science and Technology accepted (July, 2012)Kimbara J, Yoshida M, Ito H, Hosoi K, Kusano M, Kobayashi M, Ariizumi T. Asamizu E & Ezura H"A novel class of sticky peel and light green mutations causes cuticle deficiency in leaves and fruits of tomato (*Solanum lycopersicum*). "*Planta* (2012) in press

<総説等>

藤野滋弘 (accepted)『陸上津波堆積物の多様な粒度、層厚、堆積構造』
堆積学研究 (カバーストーリー)後藤和久, 西村裕一, 菅原大助, 藤野滋弘 (accepted)『日本の津波堆積物研究』*地質学雑誌* (ノート)Hauvermale AL, Ariizumi T & Steber CM" Update on gibberellin signaling: a theme and variations on DELLA repression." *Plant Physiology* (2012) in press

<学会発表・招待講演>

TANIGUCHI, T., FUJIHARA, K., WALEED, H., EHAB, E. S., YUAN, X. and SATOH, M.

Symposium "Water management and Agricultural Production in Egypt -Present and Future-",

演題：『Development of the Water and Salt Balance Model for the Prediction of Water Circulation in the Nile Delta』

日時：2012年7月16日~17日

場所：Marriott Hotel, Cairo

4) その他

▽ブラジル主要大学学長等一行が本学を訪問

7月30日(月)、ブラジル高等教育支援・評価機構(CAPES)のジョルジェ・アルメイダ・ギマラス理事長を団長とした、ブラジル主要大学学長等一行総勢35名が本学を訪問しました。訪問団は、ブラジル政府が実施する「国境無き科学(C s F)プロジェクト(科学技術分野における海外留学促進、ブラジルでの外国人学生の受入により、同分野での人材育成を目的とするプロジェクト)」促進のため訪日されました。生命環境系 **Marcos NEVES** 助教が本学訪問に参加させていただきました。

(<http://www.tsukuba.ac.jp/topics/20120731151908.html>)

2. スケジュール

<12年8月>

13日(月)～17日(金)

夏季休業

3. 事務連絡

○ 人事

下記教員が、8月1日付で新つくば型テニユアトラックに移行しました。

医学医療系助教	西村 健
医学医療系助教	松坂 賢

○ 夏季における休業について (通知)

平成24年6月28日付清水副学長名にて、夏季における休業について下記のとおり通知がありました。

本学は、昨年度からこれまでの一斉休業期間に年次休暇等取得促進期間を加えた期間を夏季における休業期間とし、省エネ及びCO2排出削減に資するとともに、政府要請による節電行動計画期間中における夏季の電力削減に対応してきたところであるが、平成24年度の夏季における休業期間については下記のとおり、年次休暇等取得促進期間に替えて新たに過半数代表者との労使協定を締結し計画年休制度を取り入れて実施することとなりましたので、通知します。

なお、夏季における休業期間中は、原則として大学を休業することをWebページに掲載することとしますが、貴組織においても、事前に関係機関等へ周知を図り理解と協力を求めるなどして業務に支障をきたすことのないようご配慮願います。

また、緊急時に備え緊急連絡網の再確認や夏季における休業期間中に非常勤職員が出勤する場合には、予め業務指示などを行うよう併せてご配慮願います。

おって、記のIの1(1)②ウ、(2)③ウ、及び(2)④イに基づきやむを得ず業務を行わせる場合には原則として8月3日(金)までに勤務を命じてください。

記

I 夏季における休業

1 夏季における休業期間

平成24年8月13日(月)から17日(金)までの5日間

(1) 8月13日(月)、14日(火) (一斉休業)

①一斉休業期間

8月13日(月)及び14日(火)の2日間

②一斉休業期間の休暇の取扱い

ア. 常勤職員については、特別休暇とする。

イ. 非常勤職員(リサーチ・アシスタント、ティーチング・アシスタント、ラーニングアドバイザー、非常勤講師、博士特別研究員及び任用期間を1か月以内の期間で採用する職員を除く。以下「非常勤職員」という。)のうち一斉休業期間に所定勤務日がある場合には、当該日を有給の休暇とする。

ウ. 服務監督者は、一斉休業期間にやむを得ず業務を行わせる必要がある場合には、勤務を命ずることができる。その場合には、常勤職員には当該勤務日数分の特別休暇を、非常勤職員には当該勤務日数分の有給の休暇を、平成24年8月18日から12月28日までの間に別に付与する。

(2) 8月15日(水)から17日(金)まで(計画年休、職務専念義務免除)

①計画年休期間

8月15日(水)、16日(木)

②職務専念義務免除

8月17日(金)

③計画年休期間の休暇の取扱い

ア. 常勤職員については、過半数代表者との労使協定に基づき年次休暇を取得する。ただし、夏季休暇を充てることもできるものとする。

イ. 非常勤職員のうち計画年休期間中に所定勤務日がある場合には、過半数代表者との労使協定に基づき当該勤務日について年次休暇を取得する。

ウ. 上記ア、イにかかわらず服務監督者は、計画年休期間にやむを得ず業務を行わせる必要がある場合又は当該期間に業務を行うという申し出が職員からあった場合には、勤務を命ずることとする。その場合には、平成24年8月18日から12月28日までの間に、当該日数分の年次休暇を取得するものとする。(連続性の有無は問わない。時間単位に分割して使用可。(常勤職員は半日単位も可))

エ. 年次休暇の付与

○平成24年7月1日現在の年次休暇の残日数が7日に満たない場合(年次休暇が付与されていない場合を含む。)には、計画年休期間において2日を限度に年次休暇を付与する。

○非常勤職員のうち計画年休期間に年次休暇を取得し、次の年次休暇付与日までの間に年次休暇をすべて消化した場合において、本人の病气、子の看護及び介護の事由により休む必要がある場合に限り、計画年休期間に取得した日数分を限度に有給の休暇を付与することができる。

④職務専念義務免除の取扱い

ア. 8月17日(非常勤職員にあっては、所定勤務日の場合に限る。)の職務専念義務を免除する。

イ. 服務監督者は、8月17日にやむを得ず業務を行わせる必要がある場合には、勤務を命ずることができる。その場合には、平成24年8月18日から12月28日までの間の1日について、職務専念義務を免除する。

4. 若手イニシアティブレポート

文部科学省科学技術振興調整費「若手研究者の自立的研究環境整備促進」次代を担う若手大学人育成イニシアティブ(平成19年度～平成23年度)プログラムを経験した「若手イニシアティブ教員」の現在の活動状況レポートです。

■原著論文

Michael Lang, Sophie Murat, Andrew G. Clark, G. A. Niraldine Goupil, Catherine Blais, Luciano M. Matzkin, Nimilie Guittard, Takuji Yoshiyama-Yanagawa, Hiroshi Kataoka, **Rvusuke Niwa**, Ren Ni Lafont, Chantal Dauphin-Villemant and Virginie Orgogozo
" Mutations in the neverland gene turned *Drosophila pachea* into an obligate specialist species "
Science in press (2012)

■学会発表・招待講演

Kenji Miura

2nd China-Japan-Korea Young Researchers Workshop

演題：『ICE1, a transcription factor, for cold tolerance and accumulation of antioxidants in plants』(英語口頭)

日時：2012年4月28日

場所：Xijiao State Guest Hotel, Shanghai, China

Kenji Miura, Masaru Ohta, Aiko Sato

Plant and Microbe Adaptations to the Cold (PMAC) 2012

演題：『MYC-type transcription factors interactors of ICE1, are negative regulators for cold signaling and tolerance in *Arabidopsis*』(英語口頭)

日時：2012年6月25日

場所：札幌(北海道大学)

Reiko Amikura, Makoto Umemori, **Rvusuke Niwa**, Yuko Shimada-Niwa, Sora Enya, Naoki Okamoto, Takashi Nishimura, and Hiroko Sano

第58回/60回 NIBB コンファレンス『Germline - Specification, Sex and Stem Cells』

演題：『Nutrition-dependent control of ovarian development by the fat body in *Drosophila*』

日時：2012年7月19日

場所：岡崎コンファレンスセンター、愛知県岡崎市

テニュアトラック普及・定着事業 News Letter vol 07

[平成24年8月号]

編集・発行：若手研究者運営調整部会

*当ニュース・レターは、毎月1回第1木曜日に配信いたします。

連絡先：テニュアトラック支援室 酒井
sakai.hisae.ge@un.tsukuba.ac.jp